厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究

研究分担者　松尾　健　NTT東日本関東病院脳神経外科医長

研究要旨
稀少難治性てんかんにおいて、レジストリに登録されたてんかん原性となりうる異形成性腫瘍につき、患者群の分布と今後加えるべき調査項目につき検討を行った。脳神経外科医の立場から、手術対象となりうる患者群、薬物治療などの内科的治療を行うべき患者群の分類につき今後も継続的検討が必要である。

A.　研究目的

本分担研究は、異形成腫瘍に伴う稀少難治性てんかんの症例を全国規模で集積、追跡調査を行い、発症年齢や病態、治療反応性、死亡に関する情報を収集することを目的とする。

B. 研究方法

本分担研究では、稀少難治性てんかんのうち、異形成性腫瘍に伴うものを対象とし、疾患登録と観察研究(横断研究、縦断研究)を行った。疾患登録からは疾患分類別の患者数と死亡率の推定を行った。観察研究のうち横断研究では患者の病態および罹病期間を把握し、縦断研究では疾患登録後2年間にわたり病態の追跡を行った。

C. 研究結果

稀少難治性てんかんのなかでも、異形成性腫瘍に伴うてんかんは比較的良好な外科治療転帰が望める。過去の報告からも、病変の完全切除により良好な発作転帰が得られることが示されている。しかし、なかには術後に発作が残存する症例もあり、術前に発作転帰を予測することが重要であると再認識した。

D. 考察

異形成腫瘍は神経節膠腫と胚芽異形成性神経上皮腫用が大半を占めるが、それでも絶対数が少なく、発作転帰を術前に予測するにはより多くの症例の蓄積が必要である。今回のレジストリに登録された患者に、後方視的な検討を加えることができれば症例数も増加し、新たな知見が得られるかもしれない。

E. 結論

異形成性腫瘍に起因する稀少難治性てんかん症例につき、レジストリ登録症例に対して、特に外科治療の発作転帰予測因子につき検討を行った。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. medicina 53巻 2号 (2016年02月号) P.332-334 脳卒中に伴うてんかんの病態と治療
2. Usami, K. Kubota, M. Kawai, K. Kunii, N. Matsuo, T. Ibayashi, K. Takahashi, M. Kamada, K. Momose, T. Aoki, S. Saito, N. Long-term outcome and neuroradi

ologic changes after multiple hippocampal transection combined with multiple subpial transection or lesionectomy for temporal lobe epilepsy. Epilepsia 57: 931-40, 2016.

2. 学会発表

1. Vagus nerve stimulation activates inhibitory neuronal network in human cerebral cortex
北米神経科学大会　2016.11.14

2. 迷走神経刺激療法により賦活される大脳皮質の抑制性神経活動
てんかん学会　2016.10.7

3. てんかんセンター新設後2年間の実績
脳神経外科学会総会　2016.10.1

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む）
なし。